

研究主題

主体的・協働的に学ぶ授業を通して、思いや考えを深める児童の育成

低学年（第1学年）分科会提案資料

児童の実態

入学してから5か月が経ち、だんだんと教師の話は最後まで聞くことができるようになってきた。しかし、ペア同士やグループでの話し合いになると、話し手側が恥ずかしがって声が小さくなってしまったり、聞き手側も興味をもって最後まで聞こうとする意欲がなくなってしまうりする姿が見られる。自分の話したいことさえ言えば満足してしまい、それに対する相手の反応や相手の話にはあまり関心を示そうとしない。相手の話を受けて、反応をしたり感想を伝え合ったりすることで、「もっと話したい！話してよかった！」という気持ちが高まり、お互いが自信をもって楽しく話しかうことができるようになってきた。

児童に付けたい力（指導事項）

◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。（ア）
◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えること。（エ）



分科会テーマ
話すことを楽しみ、お互いの考えを受け止め合える児童の育成

テーマに迫るために（年間を通じて意識的に取り組む手立て）※本単元についての手立ては後述する。
・各単元で指導事項を明確化し、その項目を重点的に指導する。また指導事項にふさわしい言語活動を、単元を貫いて位置づけることで、目的をもって話すこと・聞くことの活動に取り組ませている。

	教材名	指導重点事項	言語活動
6月	① えをみて はなそう	オ 互いのはなしを集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。	イ 尋ねたり応答したり、グループで話し合って考えを一つにまとめたりすること。
	② わけを はなそう	イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。	
	③ おもいだして はなそう	ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。	ア 事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。
	④ たからものを おしえよう	同上	同上
9月	⑤ なつやすみのことを はなそう	ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。	ア 事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。

10月	⑥ ともだちに、きいて みよう	エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。	エ 知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。
1月	⑦ もののなまえ	オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。	
2月	⑧ これは、なんでしょう	オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。	ア 事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。 イ 尋ねたり応答したり、グループで話し合って考えを一つにまとめたりすること。

日常活動の取組として

- ・ 2ヒントクイズ
- ・ 言葉ずもう
- ・ 質問じゃんけんゲーム
- ・ 好きなもの10個聞き出そう！

第1学年 国語科学習指導案

日時 令和元年10月23日（水）第5校時

対象 第1学年2組 28名

授業者 福島 清良

1 単元名 「ともだちにきいてみよう～ともだちのおたからじょうほうみつけた！～」 （全6時間）

2 単元の目標

- ・話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えることができる。（知識・技能）
- ・互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなげることができる。（思考・表現・判断）
- ・お宝情報を得るために、インタビューを意欲的にし合っている。（主体的に学習に取り組む態度）

3 単元の評価規準と学習活動に即した具体的な評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	○インタビューの中で相手の伝えたいことを理解している。 ○インタビューの中で聞かれたことを理解している。	○互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。	○お宝情報を得るために、インタビューを意欲的にし合っている。 ○お互いに得たお宝情報を進んで発表し合っている。
学習活動に即した具体的な評価規準	①つながり MAX を活用するなどして、相手の伝えたいことを理解して質問している。 ②質問されたことを理解して、相手に分かりやすく答えている。	①お宝情報をより知るために、どのような聞き方をすればよいかを考えている。 ②お宝情報をより伝えるために、どのような答え方をしたらよいかを考えている。	①インタビューをし合うことや、みんなに紹介することに関心をもち、これからの学習の見通しをもっている。 ②先生や友達のお宝情報に興味をもち、進んでインタビューをし合っている。 ③お互いに得たお宝情報を進んで発表し合っている。

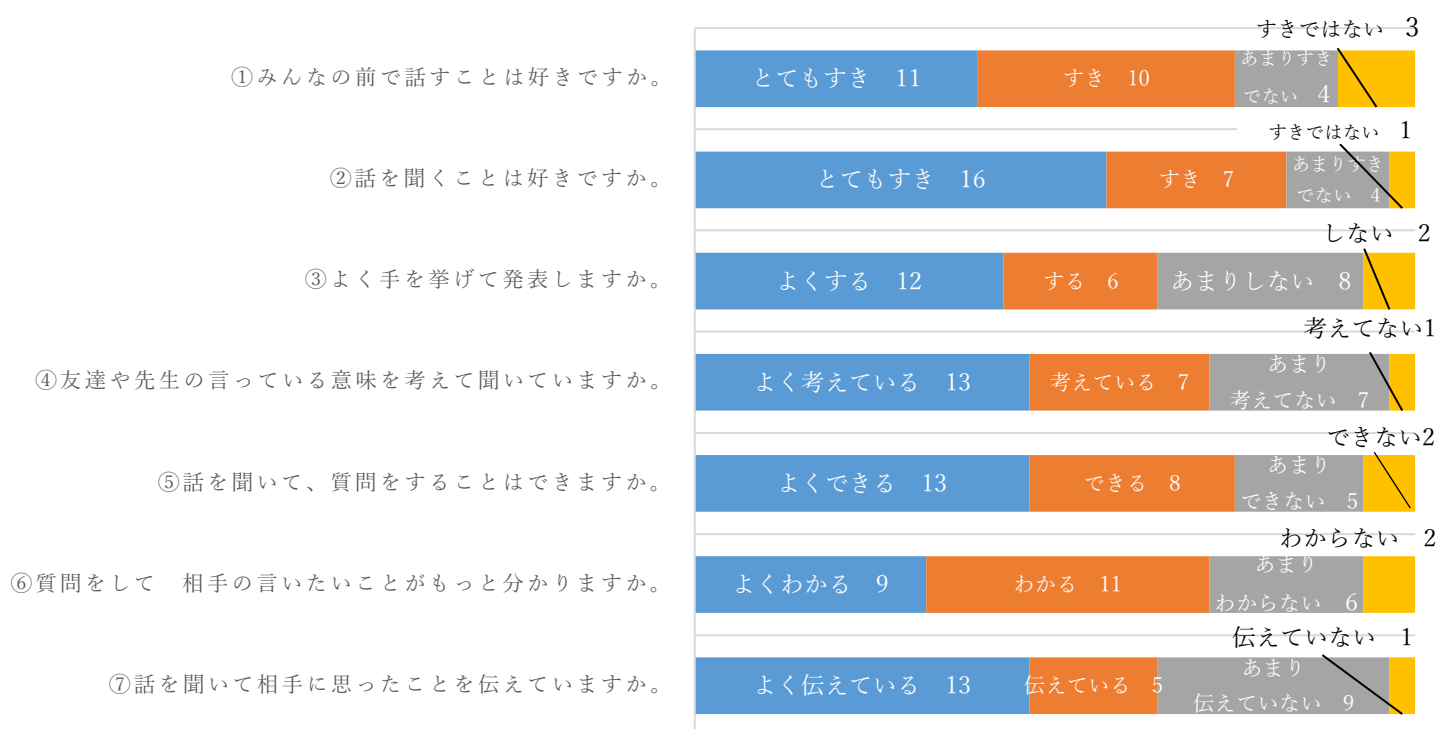
4 単元構想

(1) 児童について(児童観)

入学してから5か月が経ち、合言葉「グー、ピタ、ピン」や「話します。」の声掛けに対し、聞く時の姿勢を正したり、「はい。」と返事をしたりするなど、教師の話に耳を傾けようとする態度はよく見られるようになってきた。また、朝の会では、日直のスピーチとして「最近の楽しかったこと、楽しみなこと」をテーマに発表を行っている。「わたし(ぼく)の楽しみなことは〇〇です。なぜかというところまで。」と発表をさせた後に質問タイムを設けている。質問タイムでは、話を広げる質問や話し手が答えやすい質問をするように継続的に指導をしている。そのため、一人一人がクラス全体の前で発表するときは、聞き手も話に興味をもちながら、最後まで聞くことができるようになってきた。しかし、ペア同士やグループでの話し合いになると、話し手側が恥ずかしがって声が小さくなってしまったり、聞き手側も興味をもって最後まで聞こうとする意欲がなくなってしまうりする姿が見られる。自分の話したいことさえ言えば満足してしまい、それに対する相手の反応や相手の話にはあまり関心を示そうとしない傾向がある。

また、話す・聞くのアンケートでは、「みんなの前で話すことは好きですか。」の質問に対して、肯定的な回答をした児童は21人。「よく手を挙げて発表しますか。」の質問に対して、肯定的に答えた児童が18人だった。みんなの前で話すことや挙手して自分の考えを述べることは好きな児童が多いことがわかる。また、「話を聞くことは好きですか。」の質問に肯定的に答えた児童は23人と多い一方で、「話を聞いて相手に思ったことを伝えていきますか。」の質問に対して、「よく伝えている。」「伝えている。」と答えた児童は18人だった。このことから、話を聞くことが好きな児童が多い一方で、反応をしていなかったり感想を述べていなかったりと相手の話を聞いただけで終わっている児童が少なくないと考えた。話し手に対して反応をしたり、感想を話し合ったりすることで、「もっと話したい!話してよかった!」という気持ちが高まり、お互いが自信をもって楽しく話し合うことができるようになる考えた。

話す・聞くアンケート



(2) 話題について(学習材観)

教科書では、二人組でインタビューし合い、他己紹介をする活動とメモをもとにスピーチ原稿を作る活動が設定されている。インタビューをする活動とメモを取る活動が本単元で初めてであるため、インタビューをしたことを聞きながらメモをすること、そしてメモをもとにスピーチ原稿を作成していくことは活動に個人差があり困難と考えた。そこで、特定の相手ではなく、多くの友達とインタビューをし合うことで、友達のことを理解する楽しさを味わうとともに、楽しみながら対話の基礎を身につけることができると考えた。

この時期の一年生は自分が話すことに満足してしまい、友達の発言をもたずに最後まで聞こうとする姿勢は低い。友達に知らせたい情報を考えたり、尋ねたりすることで友達の情報が増え、「話したい!」「聞きたい!」という意欲が高まると考えた。まだ知らなかった友達の得意なことや好きなこと、怖かった経験、悲しかった経験などを尋ねたり聞いてもらったりする言語活動は、互いの人間関係を深めることにもつながると考えた。

(3) 単元について(単元観)

本単元においては、「大事なことを落とさずに」聞くということを中心に指導する。この時期の児童は、自分の話したいことを一生懸命に話すことはできても、相手の話を共感的に聞こうとする意識はまだ少ない。対話を成立させるには、相手の話をよく聞き、それを受けて返さなければならない。「大事なことを落とさずに」聞く児童を育成するためには、対話の楽しさを十分に味わうことができる題材が必要である。友達のお宝情報をインタビューしながら聞くという、児童にとって関心の高い学習活動を通して、話し手・聞き手双方の興味・関心に応じた大事なことを、落とさないで聞けるように指導したい。

5 研究主題に迫るために

研究主題を受けた低学年の目指す児童像は、

「話すことを楽しみ、お互いの考えを受け止める児童の育成」である。

柱1 単元計画の工夫

○話したくなる・聞きたくなる話題設定

これまで過ごしてきた先生や友達にまだ知らないお宝情報がある、そのようなドキドキワクワクした状況の中で、自分しか知らないことをお互いに伝え合い、聞き合うことで、主体的に話す・聞く姿が生まれると考える。

話題の数については、2～6つ程度とする。多くの話題が浮かばない場合でも、友達が変わることで、プロフィールの内容が変わったり、話し手だけでは気付かなかった発見があつたりすること、友達と話し合う良さになると考える。

柱2 受け止め合える工夫

○ミニ単元の実践

1学期から、ペアを中心としたミニ単元に取り組んできた。2学期の10月からは、高二タイムを活用して、2年生と縦割りのペアで、ミニ単元を実践している。2年生と話すという緊張感や、その友達のことを知れる楽しい気持ちで、意欲的に受け止め合いをする姿が見られる。

この実践の継続が、話そう・聞こうという意欲や、受け止め合いの力につながると考える。

○「つながりMAX!!」で友達とつながる言葉の引き出しを増やす

第1時の担任のお宝情報を聞き出す際に、児童からたくさんの質問の仕方が出てくると予想される。それを、「つながりMAX!!」(詳しく聞くための質問の仕方)とし、それ以降の友達同士のペア活動で活用していく。

教室に掲示したり、手で確認したい児童には渡したりすることで、より詳しく聞く手助けとなると考える。授業が進む中で、「つながりMAX!!」が増え、より良いインタビューができると予想する。

6 単元計画

時	学習活動	指導事項	◆評価規準 ★評価方法
1	○担任のお宝情報を聞き出し、聞いた内容をお宝カードに書く。 ○学習課題を設定し、学習計画を立てる。	・インタビューをし合うことや、みんなに紹介することに関心をもたせ、学習の見通しをもたせる。	◆【主】インタビューをし合うことや、みんなに紹介することに関心を持ち、これからの学習の見通しをもっている。 ★発言
2	○ペア同士でインタビューしているときの良い例と悪い例を見る。 ○インタビューの仕方を学ぶ。 ○友達に知らせたい自分のお宝情報を考え、お宝カードに書く。	・良い例と悪い例を見て、インタビューするときのポイントに気付かせる。 ・インタビューされたときに答えられるように事前に自分のお宝情報を考える。	◆【思】 ①お宝情報をより知るために、どのような聞き方をすればよいかを考えている。 ②お宝情報をより伝えるために、どのような答え方をしたらよいかを考えている。 ★発言、ワークシート
3 4 5 (本時)	○友達とインタビューし合う。 ○友達に聞いたお宝情報を、お宝カードに付け足す。	・つながり MAX!!を前の黒板に掲示し、意識させる。 ・困っている児童には、ヒントカード(つながり MAX!!)を渡す。	◆【主】先生や友達のお宝情報に興味を持ち、進んでインタビューをし合っている。 ◆【知】 ①つながり MAX!!を活用するなどして、相手の伝えたいことを理解して質問している。 ②質問されたことを理解して、相手に分かりやすく答えている。 ★観察
6	○友達のお宝カードをもとに、ペアを変えて発表し合う。 ○友達のお宝図鑑を完成させる。	・友達の発表を聞いた感想を交流させる。	◆【主】お互いに得たお宝情報を進んで発表し合っている。 ★観察、発言

7 本時の学習

(1) 本時のねらい

友達のお宝情報を進んで尋ねたり、それに答えたりしようとしている。

(2) 本時の展開 (5/6)

学習活動 (どんな活動をするのか)	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを決定する。	○前時の振り返りカードをもとに、よかったところを紹介し、インタビューの価値づけを行う ○これまでの学習を振り返り、自分が身につけたい力を一人一人に自己決定させる。	
ともだちの おたからじょうほうを くわしくききあおう。		
2 ペアの友達とインタビューをし合う。 ① お宝ゲットタイム 2人1組でAがBにインタビューをする。(2分) ② コレクションタイム お宝カードに友達から聞いた情報を付け足す。(2分) ③ お宝紹介タイム 友達から聞いた情報を紹介する。 ④ お宝ゲットタイム BがAにインタビューをする。(2分) ⑤ コレクションタイム (2分) ⑥ お宝紹介タイム	○選んだお宝カードに書かれていることをもとに、詳しくインタビューをさせる。 ○インタビューが進まない児童には、ヒントカード(つながり MAX!!)を用意する。 ○上手に対話をしているペアを取り上げ、全体で共有を行う。 ○コレクションタイムの時間に、忘れてしまった内容を聞きなおしても良いようにする。	◆【主】友達のお宝情報に興味をもち、進んでインタビューをし合っている。 ◆【知】 ①つながり MAX!!を活用するなどして、相手の伝えたいことを理解して質問している。 ②質問されたことを理解して、相手に分かりやすく答えている。 ★観察
4 本時の学習を自分のめあてに沿って振り返る。 5 次時の学習の見通しをもつ。	○めあての振り返りや質問・答える名人をがんばりカードに書かせ、全体で共有を行う。	